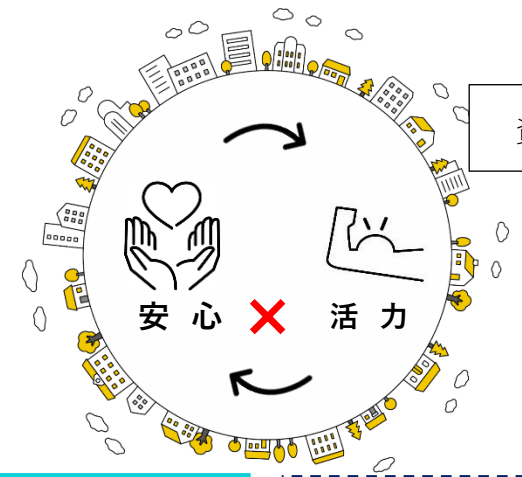


これまでの足立区の取組みに加え、次期計画で高めていくテーマ（案）

資料 2

- 現基本構想のもと、第1期基本計画（平成29年度～令和6年度）では、足立区の「安心と活力」を高める取組みを実施してきました。
- 「安心」と「活力」は、どちらかが欠けてはならない施策の両輪であるとともに、それぞれがお互いを高めあう相乗効果の関係にあります。
- 第2期基本計画では、「安心と活力」をベースに、さらに区民生活の満足度を向上させるための取組みを進めていく必要があります。



足立区の現状と将来

【将来、足立区が直面する課題】

- 足立区は、令和5年時点で高齢化率が1位/23区（足立区：24.57%）となり、特別区の中でも少子高齢化が大きく進んでいます。
- 東京都「東京の将来人口（令和5年3月28日発表）」によれば、22年後の足立区はさらに少子高齢化が進み、約3人に1人が高齢者となります（令和27年/31.06%）。また、年少人口・生産年齢人口が減少するスピードは特別区全体より早く、さらに高齢化が進行していきます。

【現在、足立区が持っている強みと課題】

- 足立区は、20代が大きく転入超過となっており、継続的に若年層が流入している強みがあります。
- 一方、転入した若年層は、定住しない割合が高く、足立区は「若年者の係留地」となっているという課題があります。
- 継続的に若年層が流入しているという強みを活かすには、区民の暮らしやすさや生活満足度を向上させ、定住意向につなげていくことが必要です。



「活力」を維持するには、
どう若年者を定住させていくか。

- やりたいことができるまち
- 誰もが主役になれるまち
- 自己実現ができるまち

活躍のフィールドへ

【活躍のフィールドになる】

- 「やりたいこと」がつながり、足立区が活躍のフィールドになることで、関係人口が増加していきます。
- 関係人口が増えることで、住民の人数以上の「活力」を生み出すことができます。
- 住んでいない人でも足立区で活躍のフィールドを持ち、人間関係を構築することで、足立区の魅力を伝えることができる機会が増加します。

【持続可能な足立区へ】

- 住民の「やりたいこと」は、足立区の「活力」へ発展し、足立区の魅力を高める力となります。
- 足立区の魅力が伝わっていくことで、さらなる定住や足立区への流入を生み出し、活力が高まる循環を生み出していきます。

ウェルビーイングと活力が
好循環を生み出していく



ウェルビーイングを高める

【生活満足度を上げるには】

- 生活満足度が高い状態とは、特定の分野の満足だけでなく、ウェルビーイング（肉体的、精神的、社会的に満たされた状態）が実現している状態です。
- 内閣府「満足度・生活の質に関する調査」では、生活満足度には「生活の楽しさ・面白さ」が大きく寄与しており、「生活の楽しさ・面白さ」は様々な分野の満足度を媒介しているとしています。

【ウェルビーイングを向上させるには】

- PERMAモデルでは、「ポジティブ感情」「没入感」「関係性」「人生の意味・目的追求」「達成感」をウェルビーイングの構成要素としています。
- 経済産業研究所の調査では、「自己決定」が「年収」や「学歴」より幸福感に影響するとされています。
- これらのことから、「自分自身で選択し実行できる（＝やりたいことができる）」ことがウェルビーイングを高めることにつながると考えられます。

「やりたいことができる」が
ウェルビーイングを高めていく



やりたいことがつながるまち

【「やりたいことができる」とは】

- 人々は性別、年代、背景、価値観、考えなど多様な個性を持っており、同様に様々な「やりたいこと」を持っています。
- さまざまな「やりたいこと」を応援・サポートする（＝実現させる）ことで、ウェルビーイングが高まっていきます。
- 「やりたいことができる」は、貧困、病気や障がいなどがあっても、それぞれのウェルビーイングを押し上げる力となります。

【「やりたいこと」がつながる】

- 「やりたいこと」が実現すると、区民の「やっていること」「やりたいこと」が顕在化し、周囲を巻き込むことで、つながりを生み出していきます。
- 「やりたいこと」がつながることで、関係する人や活動する範囲が拡大し、地域だけでなく区の大きな活力になっていきます。
- コミュニティを持たない単身者等も、つながりへ参加しやすくなります。

「やりたいこと」がつながると
「活力」が大きくなっていく



用語

【ウェルビーイング】

個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念です。
WHO（世界保健機関）の憲章前文では、「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態」と定義されています。

【ウェルビーイングとウェルネス】

ウェルネスとは、伝統的な健康の定義を超えて広がる、身体的、精神的、そして社会的、相互に関連する、ウェルビーイングの多様な側面を意味します。またそれは、身体的活力、精神的な平穏、社会的満足、達成感、そして個人としての充足感などを実現することを目的とした活動や選択を含みます。

【PERMAモデル】

心理学の世界的権威であるマーティン・セリグマンが考案したウェルビーイングの概念です。

【関係人口】

移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々のことを指します。